

パフォーマンステスト「思い出レポーター」(第8時)

測る力	話すこと[やり取り]: したことと感想を伝え、質問に応じられるか(知識・技能/思考・判断・表現)
形式・時間	先生と1対1で約1分×全員。教室前方のテスト席で(待機イス1つ)。絵カードを1枚選んで持って来てよい。
ことばの条件	黒板の「3文の型」(I went to / I stayed home. / I ate[saw/enjoyed] / It was)は掲示したままでよい。絵カード(提示用1部)はテスト席に置いておく。

35人を回す テスト中、ほかの子は何をしているか(これが崩壊しない鍵)

グループ	やること	用意する物
A(テスト中の班)	順に呼ばれてテスト席へ。呼ばれる前と終わったあとは、席でBと同じことをする	選んだ絵カード
B	過去チャンクかるた(小声で)。読み手を1人決め、活動シート1の「よみあげ文」1回戦を上から順に読む(5文で交代)	活動シート1・絵カード(班用)
C	班の中で小声レポーター。ことばは活動シート2の「レポーターのことば」から。まだ取材していない友だちと1往復	活動シート2
D	振り返りカードの「単元のまとめ」を書く(書けたら席でBと同じことをする)	振り返りカード(学校のもの)

1班終わるごと(9~10分)に役割がA→B→C→D→Aと1つずれる(テストを終えた班がBへ、Dの班が次のテスト班へ)。1班8~9人・約1分×35人で35~40分。呼ぶ順は名簿順でなく班ごと(待機イスに座るのは呼ばれる直前の1人だけ)。終わった子は、聞かれたことを話さない――後の子が思い出しテストになる。



先生の質問カードと、評価しないこと

先生の質問カード この順に聞く（子どもによって2～3問でよい）

- 1 **Hello! How are you?**
(あいさつ・緊張ほぐし)
- 2 **What did you do on the weekend? / in summer?**
(したことを1～3文で言えるか。カードを見せながらでOK)
- 3 **Oh, nice! How was it?**
(感想 It was を引き出す)
- 4 **(答えに応じて) Really? Me, too! / Sounds fun!**
(先生のリアクションに反応できるかも見どころ)
- 5 **(ここで3秒、だまって待つ)**
(質問が返ってきたら思判表a。出てこなければ次へ)
- 6 **Thank you! See you!**
(お別れまでがテスト)

評価しないこと 過去形の正確さは評価しない（go → went の言い間違いは減点しない。かたまりで言えていれば◎）。行き先の豪華さも無関係——「家で過ごした夏」を堂々と伝えられたらそれが満点。

ルーブリック（3観点）と記録シート

観点	a（十分満足）	b（おおむね満足）	c（支援が必要）→その場でする支援
知識・技能	したことの文（went / ate / saw / enjoyed / stayed home）と It was を組み合わせ、したことと感想を三文でひとつづきに伝えられる	支えの質問を受けながら、したこと1文と感想を伝えられる	絵カード2択（Sea? Pool?）で選んで単語+ジェスチャーで伝えられる→カードを指しながら1文だけ一緒に言う
思考・判断・表現	質問の内容に合う答えを選んで返し、相手の話がとぎれたときには How was it? / How about you? をその場で作ってたずね返し、やり取りを終わらせずに続けられる	質問に合った答えを返せる	質問と答えがずれる→質問をゆっくりくり返し、絵カードを見せて選ばせる
主体的に学習に取り組む態度（単元全体で）	取材メモや振り返りに自分のめあて・手ごたえが具体的に書かれ、活動でも話がとぎれたところで相づちや質問を自分から足し、やり取りを続けようとしていた	活動に参加し、振り返りに手ごたえが書かれている	→振り返りの視点を一緒に選ぶ（「今日はだれの思い出がおもしろかった？」から）

迷ったらb。cは「できない子」ではなく「次の一手がわかる子」として記録する。

記録シート 名簿順に○を1つ（テスト中はこれ以上書かない）

番号	名前	知技	思判表	メモ（1語だけ）
1		a b c	a b c	
2		a b c	a b c	
3		a b c	a b c	
4		a b c	a b c	
5		a b c	a b c	
6		a b c	a b c	
7		a b c	a b c	
8		a b c	a b c	
9		a b c	a b c	
10		a b c	a b c	
11		a b c	a b c	
12		a b c	a b c	

この用紙は12行。名簿の人数ぶん印刷して使う（3枚で36人）。態度（主体性）はテスト当日でなく、単元全体の振り返りカードと帯の様子で見る。

この単元の所見文例（通知表・指導要録に）

テストと振り返りカードの記録から、そのまま使える形で。名前・活動名を入れ替えて使ってください。

【知技・a】 went と ate、saw を言い分けて週末や夏休みにしたことを伝え、It was fun. と感想まで続けて話すことができました。思い出トークでは三文をひとつづきにして届けています。

【知技・b】 過去チャンクかるたをくり返すうちに、I went to the park. のような過去のかたまりが耳と口になじみ、絵カードをえらべば行った場所やしたことを英語で伝えられるようになりました。

【思判表・a】 Wow! と受けとめてから How was it? とたずねるなど、週末レポーターの取材では相手の話を引き出す聞き方をえらび、行った場所と感想を書き分けてメモにまとめることができました。

【思判表・b】 友だちの休みの過ごし方を知りたいという思いから、聞かれたことに合う出来事をえらんで答え、思い出トークでは伝えたい一つにしぼって三文に組み立てることができました。

【態度】 かるたで覚えた went や ate を、思い出トークでも自分から使おうとしました。一度で伝わらないときは絵カードを見せて言い直すなど、伝わるまで工夫を重ねています。

【態度】 Small Talkでは自分の休みの出来事を進んで話し、友だちの思い出にも Wow! や Nice! と反応を返すなど、英語でやり取りする手ごたえをつかんでいます。

【はげまし型】 絵カードを一枚えらんで話す内容を先に決める進め方が身につき、I went to とはじめの一文を自分から言えるようになりました。感想の It was fun. も、黒板の三文の型を指させば続けて言えます。

【接続型】 went・ate・saw といったことばを、形の説明ぬきに音のかたまりとして体に入れました。中学校で過去形を学ぶとき、「聞いたことがある」から始められる強みになります。

【発展・★3】 週末レポーターとして聞き役に回ったときも、相手が黙ってしまった場面で How was it? を自分から差し出し、インタビューを止めずに最後まで運びました。

書き方の型 ①活動名（具体）／②できるようになったこと（評価規準のことば）／③子どもの姿（1つだけ）の3つで組み立てる。並べる順は文例ごとに変えてある——同じ子が1年に何度も同じ文型の所見を受け取らないようにするため。行き先の豪華さに触れる所見は書かない（家庭環境の格差に直結するため。「伝え方」の成長だけを書く）。★3は「教科書を超えて届いた子」の記録。この★は成績そのものではありません（評価は先生の観点に沿って行います）。